

シカゴのトウモロコシ相場について

丸紅株式会社 飼料部飼料穀物課

宮内 和 広

1 はじめに

ここ最近、注目されることの多いトウモロコシ相場であるが、その分析は非常に複雑で分かりにくいというのが実情である。ここでは、トウモロコシ相場を最も大きな要因である需要と供給の両面からとらえ、国別に解説を行いたいと考える。

12月11日にUSDAの発表したクロープレポートによると、1997/98年度の世界のトウモロコシ需給は、期末在庫率が11%台と依然低いレベルであり、ファンダメンタルだけを見れば、トウモロコシ相場が上昇しやすい地合となっている。以下、今後のトウモロコシ相場に影響を与える可能性のある、国々の需給バランスを個別に見ていくこととする。

1) 米国

1997/98年度は、受粉期にイリノイ州やアイオワ州で干ばつ気味の天候が続いたため、一時は生産量が92億ブッシェル台まで減少することが予想されたが、12月のUSDAのクロープレポートでは93億ブッシェル台半ばまで戻している。生産量は史上4番目の豊作となっているが旺盛な国内飼料需要を受けて、依然として期末在庫は10億ブッシェルを下回っている。

現状の期末在庫は、通常の在庫レベルを大きく割り込んでいるため、ファンダメンタルは強いと言える。ただ、アジア諸国の金融不安を受けて、同地域への輸出が減少しているため、この状況が長引けば輸出の減少による、期末在庫の増加につながり相場を押し下げる原因となる

だろう。

2) 中国

農業技術が、先進国と比べ遅れているため生産量の増減が大きく、収穫後もインフラの整備が遅れているため、輸送途中でのロスが大きい。また、近年都市部を中心に畜産物の需要が急増しているため、国内の飼料需要も飛躍的に増加しており、トウモロコシの生産量と国内消費量が拮抗している。1997年の生産量を見ると、一時は遼寧省、吉林省、黒竜江省が干ばつに見舞われたため、1億tを下回ることが予想され、輸出も止まることが予想されたが、最終的に、今年度の生産量は1億5百万t程度に落ち着きそうで、今のところ輸出は続いている。

ただ、1997年度だけを見てみると、消費量が生産量を上回っており、期末在庫が確実に減少してきているため、1998年度のトウモロコシ生産量が1億2千万t以上の大豊作でない限り、輸出を続

世界のコーン需給 (米国農務省1997年12月11日発表)

【1996/97年度】

(百万トン)

国名	期初在庫	生産量	輸入	飼料	総消費量	輸出	期末在庫
米国	10.82	236.06	0.34	136.21	179.17	45.60	22.46
アルゼンチン	0.40	14.70	0.00	2.70	4.20	10.50	0.40
南アフリカ	1.20	9.01	0.10	4.05	8.06	1.40	0.85
タイ	0.30	3.90	0.30	4.00	4.15	0.05	0.30
EU-15	2.33	34.80	9.60	27.23	35.69	7.38	3.66
日本	1.09	0.00	15.90	12.25	16.05	0.00	0.94
中国	32.70	127.47	0.08	88.60	115.35	3.89	41.00
バルト6国	0.03	0.00	0.20	0.20	0.21	0.00	0.02
旧ソ連12か国	1.69	4.82	0.44	3.59	5.73	0.25	0.97
ロシア	0.16	1.10	0.20	0.37	1.30	0.00	0.16
世界	65.84	591.32	70.92	399.33	572.84	71.50	84.32
在庫率(%)	14.7						

世界のコーン需給 (米国農務省1997年12月11日発表)

国名	期初在庫	生産量	輸入	飼料	総消費量	輸出	期末在庫
米国	22.46	237.74	0.25	143.52	188.60	47.63	24.22
アルゼンチン	0.40	13.00	0.00	3.95	5.25	7.70	0.45
南アフリカ	0.85	8.50	0.35	3.90	7.90	1.00	0.80
タイ	0.30	3.30	0.75	3.95	4.10	0.08	0.17
EU-15	3.66	37.89	9.10	29.63	38.09	7.43	5.13
日本	0.94	0.00	15.90	12.10	15.90	0.00	0.94
中国	41.00	105.00	0.25	95.00	122.25	4.00	20.00
パルト6国	0.02	0.00	0.18	0.17	0.18	0.00	0.02
旧ソ連12か国	0.97	6.97	0.34	3.73	5.88	0.45	1.94
ロシア	0.16	1.70	0.10	0.66	1.60	0.00	0.36
世界	84.32	572.63	70.81	414.23	589.70	72.35	67.25
在庫率(%)	11.4						

けることは難しくなることが予想される。

3) アルゼンチン

12月12日現在、トウモロコシの作付けは87%以上進んでおり、今のところ生育状況は順調である。作付け開始時は一部で乾燥気味の天候が続き、作付けの遅れが懸念されたが、11月末より乾燥気味の天候が続いた地域に降雨があり、一気に作付けが進捗した。12月12日に発表されたUSDAの

米国コーン需給の推移

【コーン】	面積：百万エーカー 数量：百万ブッシェル 価格：ドル/ブッシェル									
	1989/90	1990/91	1991/92	1992/93	1993/94	1994/95	1995/96	1996/97	1997/98	
作付け面積	72.3	74.5	75.9	79.3	73.2	79.2	71.2	79.5	80.2	
収穫面積	64.8	67.0	68.8	72.1	62.9	72.9	65.0	73.1	74.0	
(%)	89.6	89.9	90.6	90.9	85.9	92.0	91.3	91.9	92.3	
反収	116.2	118.5	108.6	131.4	100.7	138.6	113.5	127.1	126.4	
期初在庫	1,930	1,345	1,521	1,100	2,113	850	1,558	426	884	
生産量	7,525	7,934	7,475	9,482	6,336	10,103	7,374	9,293	9,359	
輸入	2	3	20	7	21	10	16	13	10	
総供給量	9,458	9,282	9,016	10,589	8,470	10,963	8,948	9,733	10,253	
国内飼料用	4,389	4,669	4,878	5,301	4,704	5,534	4,711	5,362	5,650	
工業用種子	1,356	1,367	1,454	1,511	1,588	1,693	1,583	1,691	1,775	
輸出	2,368	1,725	1,584	1,663	1,328	2,177	2,228	1,795	1,875	
総需要量	8,113	7,761	7,916	8,476	7,620	9,404	8,522	8,849	9,300	
期末在庫	1,345	1,521	1,100	2,113	850	1,559	426	884	953	
在庫率(%)	16.6	19.6	13.9	24.9	11.2	16.6	5.0	10.0	10.2	
(政府関係在庫)										
ローン	112	209	196	693	77	348	33	0	0	
備蓄	387	3	0	13	119	78	0	0	0	
CCC	233	371	113	56	45	42	30	2	0	
合計	732	583	309	762	241	468	63	2	0	
自由玉	724	1,147	791	1,351	686	1,438	396	882	928	
手取り価格	2.36	2.28	2.07	2.50	2.26	2.26	3.24	2.45-2.85	2.40-2.80	
ローン価格	1.65	1.57	1.72	1.72	1.72	1.89	1.89	1.50		
ターゲット価格	2.84	2.75	2.75	2.75	2.75	2.75				

クロップレポートによると、1998年度の生産量は1千4百万tで、その内7.7百万t程度が輸出に回るものと思われる。

現時点で作柄を云々することは時期尚早であるが、今のところ生育状況はエル・ニーニョの影響も少なく順調であり、上記の生産量が達成される見込みである。上記の輸出量が達成されることは、既に相場に織り込み済みであるため、今後の生産予想の推移によっては、相場の変動要因となってくるだろう。

4) 東ヨーロッパ諸国

ハンガリーやルーマニアは、ロシア、EC諸国等向けにトウモロコシを輸出していたが、1997年産はロシアやEC諸国の飼料穀物生産が増えたことにより、輸出の向け先を失い東南アジア諸国に輸出し始めている。ハンガリーやルーマニアの生産量は安定しているものの、周辺諸国の環境は毎年変わるため、安定供給という点では疑問が残るが、単年度では米国の輸出を減少させるという意味で、トウモロコシ相場を押し下げる要素と言える。

2 まとめ

世界最大のトウモロコシ生産国であり、輸出国である米国の生産量がほぼ決まり、今後は、各国の需給バランスに脚光の当たる時期へと移行することになる。世界的に見ると、トウモロコシの期末在庫がひっばくしている中で、アジア諸国の経済不安による需要の減少、及び東ヨーロッパ産トウモロコシのアジア諸国への輸出により、米国のトウモロコシ輸出が、どこまで減少するかが、今後の焦点となるだろう。

